



一般社団法人 日本顕微鏡歯科学会

第20回学術大会・総会 ランチタイムセミナー

大会長：寺内吉継

実行委員長：表茂稔

エルタニスが可能とする次世代

綿引 淳一

東京日本橋 AQUA 歯科・矯正歯科包括 CLINIC

天然歯を活かし、機能的かつ審美的に大幅な改善が期待できる矯正治療は、現在大きな注目を集めている。世界保健機関（WHO）は、不正咬合を虫歯や歯周病に次ぐ重要な口腔健康問題として位置付けており、その有病率は39%から93%に及ぶと推定されている。一方、2018年にAJO-DO（American Journal of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics）に掲載された後ろ向きコホート研究では、矯正治療を受けた患者の98.9%から85.2%に歯肉退縮が観察されたと報告されている。特に歯周組織のフェノタイプが脆弱な症例では、これが大きなリスクとなる可能性がある。このため、近年、Phenotype Modification Therapyとして知られる矯正治療に起因する歯肉退縮の予防が注目されている。SFOT（Surgically Facilitated Orthodontic Therapy）、VISTA（Vestibular Incision Subperiosteal Tunnel Access）、O-PRO（Optimized Periodontal Regeneration for Orthodontics）などの手法が提案されている。しかし、これらの術式が本来の目的を十分に理解せずに実施されるケースも少なくない。また、Angle E.HとCalvin Caseによって引き起こされた「抜歯対非抜歯論争」（1911年）以来、歯槽骨基底部を超えた矯正治療の是非や、矯正治療後の後戻りに大きく関与する犬歯間幅径の維持についての議論は、矯正後の歯肉退縮の問題と合わせて、未だに解決されていない大きな課題である。そこで、本講演ではエビデンスを整理するとともに、演者が開発したAI搭載次世代セファロ分析システム（DIP Ceph）を用いた診断のもと矯正治療に最適化された歯周再生治療（O-PRO法）やFacial Aesthetic Bone Augmentation（FABA法）、さらにはOrthoPerioに関するクリニカルガイドラインを提案するとともに、包括的矯正治療の可能性と今後の課題にも言及したいである。

略歴

1999年 昭和大学歯学部卒業
2004年 昭和大学歯学部歯科矯正学 大学院卒業
2006年～ AQUA 日本橋 DENTAL CLINIC(現：東京日本橋 AQUA 歯科・矯正歯科 包括 CLINIC) 開業
2007年～ 昭和大学歯学部歯科矯正学教室 兼任講師
2008年～ 医療法人社団 Teeth Alignment 理事長 就任
2008年～2012年 理化学研究所脳科学総合センター 客員研究員
2009年～2011年 ニューヨーク大学インプラント科 CDE 修了
2018年～2023年 アメリカ顕微鏡歯科学会 理事
2011年～2017年 アサヒグループ HD 和光堂 商品開発コンサルタント
2021年～ 包括的矯正歯科研究会 発足

認定医資格等

日本矯正歯科学会認定医 日本矯正歯科学会臨床指導医
日本歯周病歯科学会認定医 日本臨床歯科学会認定医

◀ 受賞歴

第 114 回アメリカ矯正歯科学会 Joseph E. Johnson Clinical Award(2014),
日本臨床歯科学会 (SJCD) 東京 SJCD Award(2018),
日本臨床歯科学会 (SJCD) 合同例会優勝 (2022),
日本咀嚼学会 優秀講演賞 (2012),
日本矯正歯科学会 優秀発表賞 (2004,2006,2009,2010),
昭和大学矯正学教室 榎教授賞 (2004)

◀ 主な講演関連書籍

包括的矯正歯科治療 単著 2023 年 11 月 10 日 クインテッセンス出版
The Ortho-Perio Patient 監訳 2023 年 11 月 10 日 クインテッセンス出版